

企業に求められる緊急対策

災害に備えるリモートワーク体制を

通勤困難者の続出を受け、社外や在宅で業務を行うリモートワークに注目が集まっている。リモートアクセスやWeb会議ベンダーには問い合わせが殺到。夏の電力不足に備えて導入準備に入る企業も相次いでいる。

「震災後半月間の申し込み数は、平時の10倍」。

3月11日金曜に発生した東日本大震災と大津波は、東北に甚大な被害をもたらすとともに、首都圏でも多くの帰宅難民を生み出した。その後間もなく計画停電の実施が決まり、週明け14日朝から駅は通勤困難者でごった返した。

NTTアイティには14日から、リモートアクセスソリューション「マジックコネクト」への問い合わせが殺到した。マジックコネクトは、自宅のPC等からインターネット経由で会社内の自席PCにアクセスし遠隔操作するソリューションである(図表)。

「導入検討中あるいは試行中だったお客様からは『すぐに本導入したい』、すでに利用中のお客様からは『ライセンス数を拡張したい』との要

望が相次いだ」と、マジックコネクト営業本部・担当部長代理の澤瀬順一氏は話す。

専用のUSBキーを手元のPCに挿し込むだけで、内部のソフトウェアが起動し、中継管理サーバーを介して社内PCにつながる。中継管理サーバーは、ユーザー企業が自営するほか、NTTアイティがデータセンター内で運用するものをASP型で利用することも可能だ。後者であれば、短期間で利用開始できる。

既存ユーザーの利用頻度は、3月11日から急増した。中継管理サーバーへのアクセス数が急上昇し、NTTアイティではサービス品質を維持するためにサーバーとネットワークを即座に増強。並行して、既存・新規顧客へのUSBキー出荷を急いだ。営業担当者等も急遽製造・出荷作業に回

す緊急シフトで対応したという。

止められない業務を外から回す

NTTアイティ自身もマジックコネクトを最大限活用した。同社内でも通勤困難者が続出。自宅待機を余儀なくされた社員は、インターネット経由で社内PCを遠隔操作し、例えば顧客からのメール問い合わせへの対応などリモートワークで処理可能な業務を担った。

緊急シフトとテレワークにより「通常時でも利用開始まで2週間ほどお待ちいただくような100ユーザー程度の新規申込みに対しても、5営業日ほどで応じることができた」。澤瀬氏はそう振り返る。

今回、特に印象深かったのは決裁のスピードだという。そもそも強固なセキュリティを売りとした商材ではあるが、通常、導入前には念入りな事前検証がつき物だった。長期間にわたるそうした手順を、今回は急場の必要性が押しつけたかたちだ。

導入社数だけでなく、1社当たりのライセンス数も飛躍的に伸びた。従来は、数名の経営幹部から利用を開始するケースが多かったが、震災以後は自宅待機者のリモートワーク環境を整備するために、当初から数十ライセンスを一気に導入する企業も珍しくないという。

なお、マジックコネクトは光ファイバーなどの固定回線だけでなく、通

図表 NTTアイティ「マジックコネクト」の仕組み

